

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	岡田 彩	学校名	習志野市立大久保小学校
実施学年	1年	教科	国語
单元名	スイミー		




《学びを深めたいポイント》

- ・展開では、本時で扱う場面でスイミーがどんなことをつぶやいていたかを考えていく。場面の内容や様子を捉え、スイミーがどんなことをつぶやいたかワークシートに記入し、それを友達と共有し合うことで、様々な意見に触れ、自分の考えと比べることができる。そのような対話の活動を通して、場面の様子を深く考えられるようにしたい。
- ・つぶやきを共有した後、動作化を行う。グループや全体での共有の時間をとったこと、提出箱で自由にほかの児童の考えに触れることで、自分の考えを深めたり改めたりした後で、実際に動いて場面の様子を捉えていくことで、スイミーやその他の登場人物の様子や心情を読み深めることができるようにしたい。

《SKYMENU 活用のポイント》

- ・展開で、スイミーのつぶやきを考え記入するワークシートを「発表ノート」でデータとして配付する。そうすることで挿絵をノートに貼ったり、吹き出して囲んだりするなどの作業をする必要がなくなり、全員がタブレット端末上でスイミーの心情を考える作業に集中することができるというメリットがある。
- ・手書きモードを活用することで、タイピングができない1年生でも、文字入力を行うことができる。
- ・必要に応じてシートをコピーし、スライドを増やして使用することで、複数の意見を書きこむことができる。また、友達の意見を聞いて自分の意見に取り入れるときにも、ノートのページを気にせずにスライドを増やして意見を書きこむことができ、たくさんのタブレット端末の操作のみで完結するので、机の上がすっきりとした状態で、学習を行うことができる。
- ・共有する活動では、友達の書いたつぶやきを、自分の端末でも確認することができ、自分の考えと比較しながら考えることで、より場面の様子について考えを深めることができると思う。
- ・自分の手元で確認するか、テレビ画面で共有するか、より見やすいほうを選ぶことができる。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	<p>1 教材を読み、場面の内容を確認する。</p> <p>○全員で5場面を読み、内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイミーの兄弟とそっくりのさかなたちをみつけていたよ。 ・みんなで力を合わせて、大きな魚のふりをしようとしているね。 		
展 開	<p>2 スイミーのつぶやきを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>あかいさかなたちとであい、うんとかんがえたとき、スイミーはどんなことをつぶやいていたのだろう。</p> </div> <p>○スイミーはどんなことをつぶやいているか、書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう仲間を失いたくない。 ・みんなで自由に海を泳ぐためにはどうしたらいいだろう。 ・このまま隠れて暮らすのはいやだよ。  <p>3 スイミーのつぶやきを友達と共有する。</p> <p>○スイミーはどんなことをつぶやいているか、友達と意見を共有しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「このまま隠れて暮らすのはいやだ」とつぶやいていると思います。理由は、スイミーは海でおいしいものをたくさん見つけたからです。 ・「もう仲間を失いたくない」とつぶやいていると思います。理由は、元気になったけど仲間を失ったときの悲しさはわすれていないからです。 <p>○全体でも意見を共有しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どうしよう」と言っていると思います。 	<p>・発表ノートにワークシート配布し、スイミーのつぶやきを記入する。</p> <p>(実際に児童が記入したもの)</p>  <p>・自分の書いたつぶやきを友達と伝え合い、共有する。</p> <p>・児童は「発表ノート」の画面を見せながら、小グループで話し合いを行う。</p>  <p>・全体共有の場面では、画面共有を行い、児童の端末にも発表</p>	<p>・手書きモードを活用することで、タイピングができない1年生でも、文字入力を行うことができる。</p> <p>・発表ノートを活用することで、挿絵を切る、貼るなどの作業をせずに活動に入ることができる。</p> <p>・話し合いの前に提出箱に提出させることで、友達のワークシートを自分の端末でも提出済みのワークシートを見ることができる。</p> <p>・自分の手元で確認するか、テレビ画面で共有するか、より見やすいほうを選ぶことができ、どの席であっても差なく、友達の意見に触れることができる。</p>

	<p>理由は、また仲間がいなくなるのもこのまま隠れて暮らすのも嫌だと思っていると思うからです。</p> <p>4 考えたつぶやきをもとに動作化を行う。</p> <p>○スイミーたちになりきって読みましょう。</p> <p>・「スイミーはかんがえた。」のところは、すごく悩んで考えていると思います。</p> <p>・小さな魚たちは、怖がっていると思うな。</p>	<p>をしている児童のワークシートが表示されるようにする。また、テレビ画面にも表示し、どちらでも見やすいほうで確認ができるようにする。</p>	
まとめ	<p>5 つぶやきや動作化を踏まえて、スイミーの思いを考える。</p> <p>○スイミーはどんな思いで大きな魚を作ろうとしたのか書きましょう。</p> <p>・スイミーはまたみんなで仲良く暮らしたいと思ったから、食べられない方法を一生懸命考えてみんなに伝えたと思います。</p> <p>・仲間にも海の面白い生き物たちを見せてあげたかったんじゃないかなと思います。</p>		

《実践を振り返って》

- ・本時の実践までに、ほかの場面に関しても同様に学習を進めていたため、スムーズに学習に取り組むことができた。低学年でも、何度も繰り返し身につけさせたいスキルを取り入れた活動を行うことで使えるようになることがわかった。今後もスモールステップでスキルを教え、身につけさせていきたい。
- ・タブレット端末の不具合が起こったときのために、ワークシートを紙でも用意した。もしもの時のために用意しておくことで、学習の機会が失われないよう配慮できるが、いつでも使えるように更新をすることや、扱い方を改めて確認していくことが大切だと感じた。筆箱などと同じように、タブレット端末を学習道具として扱うための指導も、低学年の時期に徹底していきたい。
- ・発表ノートを活用して、提出箱の中が自由にみられるようになったことで、発表が苦手な児童の意見も、知ることができた。「○○ちゃんの意見おもしろいよ」などという声も挙がり、色々な人の意見に触れることができたのがよかった。
- ・発表ノートにつぶやきを記入させたので、教員側は本時で児童がどんなつぶやきをしているか一つのフォルダにまとまっているので見やすかったが、児童は前回のシートを見るのに一度シートを閉めて、前のものを開くという作業が必要なので前時の内容を振り返ることのハードルが高くなってしまったと感じた。一つの単元で一つの発表ノートを使用するなど、振り返ることも素早くできるような手立てを考えていきたい。